

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 R6年 2月 15日

事業所名:スマイル 津芸濃

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		パーティションやなどで区切りをつけて、学習や運動を分ける時ことができている。
	2	職員の配置数は適切である	○		規定以上の職員を配置しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレの段差は有るので、改善の余地あり。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		ミーティングや全体ミーティングなどで課題を話し合い、改善を行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPだけでなく様に紙面でも配布し公開する形をとっています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修は業務上可能な限り参加しており、施設内でも定期的に研修を行っています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別支援計画はスタッフ全員でカンファレンスを行い、ご家族の同意により決定しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	標準化されたアセスメントツールを使用まではしていませんが、参考にしながら、アセスメントを行っています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スマイルポストというものを作り、子どもたちの意見も回収しています。チームまたは、お子様、ご家族のご意見を参考に立案を行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		スマイルポストというものを作り、子どもたちの意見も反映しながら、固定化しないよう工夫しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		日々の支援の中にSSTが起きやすいような環境考えつつ、スタッフを共有を行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングで、1日の流れを確認しながら、項目ごとに役割分担を行っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		パートさんなど退社時間が異なる方も含めて情報共有できるように連絡ノートを活用して情報共有に努めています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		連絡帳や電子カルテ(HUG)を用いてその日の活動内容や写真を添付し、ご家庭に見ていただけるように対応しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に計画の見直しを行い、ご家族と面談の上、支援内容を決定しています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせながら支援を行っている	○		学習支援、集団活動プログラム・季節行事等を組み合わせながら、活動プログラムを実施しています。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	保護者様を通じて必要な情報をいただいていることが多いです。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前に利用していた施設に連絡させていただき、訓練内容や状況など情報共有させていただいています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	機会があれば、検討していきたいと考えています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		帰りの送迎時に、その日の出来事を直接お伝えしたり、連絡帳やHUGで情報共有を行い、両者の理解が深まるように努めています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		状況に応じて電話や施設に来て頂き、困りごとへの対応方法等を話し合いながら対応させていただいています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳・電話での相談や、必要に応じ面談を実施しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情をお受けした場合は、職員間で迅速にミーティングを行い、対応策や課題を検討したうえで対応させて頂いています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		連絡帳や2か月おきの会報でのイベント告知を行っています。緊急時等の連絡は電話連絡を行っています。
	35	個人情報に十分注意している	○		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	現在は行っておらず今後の課題としていきたいと考えています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		長期休暇時、定期的を実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			研修に参加し、施設内での伝達講習を行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		